

病理診断科

1. 概要

病理診断科は生検や手術検体の病理組織診断、術中迅速診断、細胞診検査、病理解剖を行っている。また病理診断科を選択した研修医の実習・教育および臨床各科から依頼された学術報告への協力、院内カンファレンスへの参加も同時に行っている。これらの業務を常勤病理医1名と非常勤病理医7名で行った。非常勤病理医は浜松医大から3名、名古屋大学から2名、藤田医科大学から1名、愛知医科大学から1名派遣された。

2019年の病理組織検査の依頼件数は12,582件で、そのうち術中迅速診断は537件であった。病理解剖は18件で、定期的にCPCを開催し、臨床各科を交えて、症例の診断・治療、病態・死因についての詳細な検討を行った。CPCは研修医の教育の場としても重要で、研修医が一例以上を担当し、症例の発表・報告を行った。提示症例は貴重例が多く、教育的効果は大きいものがあった。さらに剖検診断結果は日本病理学会が刊行している日本病理剖検輯報に掲載され、広く医学に貢献している。

浜松医科大学と名古屋大学の6年次生の臨床実習を引き受けており、浜松医科大学から3名と名古屋大学から1名を受け入れた。

(部長 前多 松喜)